

平成 18 年度 歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会事務局社会教育課

評価対象期間：平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

1 指定管理者

指定管理者	株式会社日立ビルシステム
指定期間	平成 18 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（5 年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを目的とする。
指定管理料	9,400 千円（5 年間計 45,700 千円）

2 管理運営の内容

項 目	18 年度の状況
運営状況	○ 平等利用のための手法 ・ 接遇教育や案内資料の整備を行い、来館者への平等で均一なサービス提供に努めた。 ○ 自主事業の展開 ・ 研修室を利用した「手作りに挑戦」など各種イベントを年間 11 回開催 ・ 市史子ども歴史「わたしたちの四條畷」発刊を記念して、原画展を開催 ○ 情報提供 ・ 市広報紙、資料館ホームページ、ミニコミ誌に資料館の紹介や催しの案内を掲載 ・ 指定管理者のお客様向け情報誌に、市と資料館の紹介を掲載し、全国に向け、四條畷市の歴史遺産を PR。また、指定管理者のホームページにも同様の内容を掲載 ○ 安全確保対策 ・ 緊急連絡先を掲示 ・ 迅速なクレーム処理を行うための社内相談窓口を施設のバックアップに適用
維持管理状況	○ 保守点検 ・ 施設の稼動状況に合わせ最適なメンテナンス周期を設定、基準化し適切な整備を実施 ・ 職員による蛍光灯交換、機器の状況点検など職員を動員した効果的な維持保全に努めた。 ○ 備品の管理 ・ 展示模型及び映像機器を適切に管理 ○ 警備業務 ・ カメラ・モニターの設置、更新 ○ 環境保全への取り組み ・ 年間を通した空調温度の見直し ・ ごみ箱の供用化、種類別の設置などゴミの分別と少量化を推進

利用状況	前年度と比較し、利用者数は全体で4.3%の増加となった。特に、18年12月、展示室の蔵が国指定登録有形文化財建造物に指定され、内部を公開したこともあり、年度後半の第4四半期には大幅な増加（前年同期比35%増）となった。 ・学校・保育所 999人(19.6%増) ・一般団体 1,326人(97.3%増) ・個人 7,930人(4.8%減)
収支状況	当年予算で83万3千円の赤字を見込んでいたが、「日立共同購買サービス」の利用等により、経費縮減を行い、32万7千円の赤字に圧縮した（指定期間の5年間トータルで黒字を見込んでいる。）

3 利用者へのアンケート調査

項 目	18年度の状況
調査の実施内容	対象：施設利用者 調査期間：平成19年1月～2月 調査方法：アンケート用紙と箱をホールに設置。自由に記入してもらう 回答件数：45件
調査の結果	スタッフの対応：「満足」が約78% 「やや満足」を含めると約88% 展示の開設への対応：「わかりやすい」が約64.4%
主な苦情・意見等	スタッフがやさしくて入りやすい。 石器など本物が見られてよかった。 イラストでの説明がわかりやすい。

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○ 5 ● 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1
講 評	展示室の蔵が国指定登録有形文化財建造物に指定されたことを受け、直ちに内部を公開し、第4四半期の利用者を大幅に増加させた。 また、地域の小中学生など若年者が数多く利用している実績があり、郷土意識を育む施設として機能していることを評価する。また、全国展開している指定管理者の広報誌に本施設が掲載され、本市の魅力が全国に向けてアピールされた。独自のホームページやポスター掲示で事業情報を発信するなど積極的な情報提供に努めている。 維持管理面については、展示品の監視にとどまらず、子どもの利用が多い施設であることを踏まえ、カメラ、モニター設置の工夫・改善が行われたことは施設の安全・安心な管理に役立っている。 スタッフへの満足度が高く、また、独自のイラストによる展示品の説明がわかりやすいなどの評価も高い。 今後については、市外の利用者を含め、地域の歴史・文化の中核施設として、より一層活用されることが期待される。

（参考）評価の基準

- 5 計画内容を上回る（非常に満足できる）結果
- 4 計画内容をやや上回る（満足できる）結果
- 3 計画内容どおりの（妥当と判断する）結果
- 2 計画内容をやや下回る（不満が残る）結果
- 1 計画内容を下回る（非常に不満が残る）結果